

キイトルーダとエピルビシンとエンドキサンの治療をお受けになる方へ



腫瘍は、正常細胞に比べて分裂増殖が盛んです。

キイトルーダとエピルビシンとエンドキサンは、分裂増殖が盛んな細胞に作用します。正常細胞でも分裂増殖が盛んな細胞は、薬の影響を受けやすく副作用として現れてきます。以下に、キイトルーダとエピルビシンとエンドキサンによる治療の副作用をご説明しますがこれらの副作用がすべての方に必ず起こるわけではありません。

キイトルーダは私たちがもともと持っている免疫の力を回復させることで、がんへの攻撃を高める、これまでとは異なるメカニズムに基づく『がん免疫療法』の治療薬です。

エピルビシンが鮮明な赤色をしており、治療後、排尿時に尿が赤くなることがあります。血液ではありませんので安心して下さい。

薬の名前	1日目	2~21日目
キイトルーダ (成分名;ペムブロリズマブ)		お休み
エピルビシン (赤色) (成分名;エピルビシン)		
エンドキサン (成分名;シクロホスファミド)		

※上の表の21日を1回の治療として繰り返し行います。症状や経過に合わせてお休み期間は変わります。

一日のスケジュール

	点滴時間	薬の名前	薬の働き
		生理食塩水50ml	生理食塩水;ルート確保
	30分	生理食塩水100ml キイトルーダ	キイトルーダ;腫瘍の細胞分裂を抑える。
	10分	生理食塩水50ml	生理食塩水; 点滴チューブの洗浄および状態の確認
	15分	生理食塩水 50ml パロノセトロン1A デキサート	パロノセトロン・デキサート;吐き気を抑える。
	15分	生理食塩水50ml エピルビシン	エピルビシン;腫瘍の細胞分裂を抑える。
	10分	生理食塩水50ml	生理食塩水; 点滴チューブの洗浄および状態の確認
	30分	生理食塩水100ml エンドキサン	エンドキサン;腫瘍の細胞分裂を抑える。
	10分	生理食塩水50ml	生理食塩水; 点滴チューブの洗浄および状態の確認

●この治療は白血球低下が起こりやすいため、一般的に白血球低下を予防するために点滴の翌日もしくは翌々日にジールスタ皮下注を使用することが多いです。

◎起こりやすい副作用について

●食欲不振・吐き気

程度の差はありますが、ほとんどの方に認められる症状です。

点滴治療の場合には点滴終了後3日程度と言われております

症状が強い場合は時期に合わせて、吐き気止めのお薬を追加することがあります。

●疲労感

身体がだるく感じたり、疲れやすさを感じる場合があります。多くは点滴後3日間程度と言われております。この期間は無理をせず休息をとるほか、散歩など気分転換をはかるとよいと言われております。

●骨髄抑制

白血球が少なくなると、病原菌に対する体の抵抗力が弱くなり、感染症を起こしやすくなります。そのため、手洗い・うがいを心がけましょう。

特に治療期間中38.0度以上の発熱、37度台であっても悪寒や咳、のどの痛み、排尿時の痛みなどがある場合は感染症にかかっている場合があるので病院へ連絡しましょう。

赤血球が減少することで貧血になる場合があります。

血小板は止血に働くため減少が強いと出血しやすくなります。歯茎からの出血や鼻血の症状に注意が必要です。

●下痢・便秘

1日3回以上の排便回数の増加や水様便が出る場合があります。

症状が続く場合は、脱水症状を防ぐため水分補給を行ってください。

症状に合わせて下痢止めを使うことがあります。

また、便秘になる場合もあるので便秘の場合は下剤を使用することがあります。

●口内炎

口の中・歯肉・咽頭がしみる、ひりひりする、赤くなるといった症状が出る場合があります。

口内炎は予防がもっとも大切です。口の中を清潔に保つよう心がけましょう！！

●味覚障害

味覚障害は、甘味、塩味、酸味、苦味、旨味の5つの基本味の変化に対する症状であり、具体的には何を食べても味が薄く感じる(味覚減退)や味を全く感じない(味覚消失)などを生じる場合があります。

●血管痛・静脈炎、注射部位熱感・局所痛

薬が血管を刺激するため、治療中に血管の痛みや腫れが起こることがあります。また、数日後にも発赤、腫脹、熱感などを感じる場合があります。異常を感じたらすぐにお知らせください。点滴の種類によっては点滴する腕を温めて点滴をします。

●間質性肺炎

息切れ、呼吸苦、せき及び発熱の症状が続く場合は早めに相談しましょう。

●出血性膀胱炎、排尿障害

治療後2～3日で症状が出ると言われています。尿が近い(回数が増える)、尿に赤みが出る、尿が残った感じ、排尿痛といった症状が起きる可能性があります。十分に水分を摂取するように心がけましょう。

●脱毛

この治療は脱毛の頻度が高いと言われています。毛が抜けやすくなる、髪を洗ったときに多量の毛髪が抜けるといったことがあります。個人差はありますが、薬の投与2～3週間後から多く起こり、髪以外の部分(体毛・眉毛・陰毛)でも起こります。髪は、抗がん剤の治療が終われば3～6ヶ月後には再び生えてくる場合が多いです。

●アンスラサイクリンによる心毒性

心臓に対する副作用があり、心臓がドキドキしたり、息苦しくなったり、むくみが出る場合があります。薬の使用量が増えるほど症状が出現することが多くなります。心臓がドキドキしたり、息苦しくなったりしたときは、医療スタッフに連絡しましょう。治療終了後に症状が現れる場合もあります。

●免疫チェックポイント阻害剤(キイトルーダ)

免疫チェックポイント阻害剤の副作用はご自身の免疫機能が過剰に働くことで体のどこかに影響がでることがあります。詳しくは別紙を参照してください。



これら以外の副作用があらわれる場合もありますので、気になる症状があらわれた際には必ず医師、薬剤師または看護師にご相談ください。